

平成30年度(2018年度)

管理事業名	文化財保護事業				総合計画の体系	第4章 第4節	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり 多様な文化が交流するまちづくり		
主な歳出 予算科目	一般会計	(款) 10	教育費	(項) 5	社会教育費	(目) 8	文化財保護費		
部局名	地域教育部	予算執行所属		文化財保護課					
予算大事業名 文化財保護事業	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名								
事業の目的と概要 ・文化財調査事業 埋蔵文化財の発掘調査を行い、出土した遺物等の整理作業を行い、報告書等の作成を行います。有形文化財等市内に所在する文化財の調査を行います。 ・文化財保存啓発事業 文化財調査の成果をまとめ、報告書を作成します。教育委員会で管理する史跡等の管理に努め、文化財の保存・活用等の啓発をはかります。また、文化財の保存と活用をはかるため、指定・登録文化財の所有者等に補助金を支出します。 ・吹田学事始め事業 地域の身近な文化財の調査を行い、その成果をまとめます。 ・旧西尾家住宅(吹田文化創造交流館)保存活用事業 歴史的・文化的価値が高い建物の保存と文化財としての価値や味わいを生かした活用をはかります。 ・旧中西家住宅(吹田吉志部文人墨客迎賓館)保存活用事業 旧中西家住宅の保存・公開並びに調査・研究・活用をはかります。									

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	成果指標の定義
施設入館者数	人	7,967	6,722	1,583	施設が主催する事業の参加人数及び入館者数
旧西尾家住宅(吹田文化創造交流館)		6,117	4,531	834	
旧中西家住宅(吹田吉志部文人墨客迎賓館)		1,850	2,191	749	
開発工事等に伴う埋蔵文化財等調査件数	件	173	115	96	開発工事等に伴う埋蔵文化財調査・立会及び文化財調査件数
成果の説明	・旧西尾家住宅と旧中西家住宅は、平成30年6月18日に発生した大阪府北部地震と9月4日の台風21号による被害のため長期休館したことから、前年度に比して大幅に入館者数が減少しました。 ・開発工事等に伴う埋蔵文化財等調査件数については埋蔵文化財の発掘調査、工事時の埋蔵文化財の立会、市内に所在する有形文化財等の調査の合計件数で、年間約100件前後ありますが、近年発掘調査では1件当たりの面積等が増える傾向にあります。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	-	-	-	-
国庫支出金(経常費用充当)	8,739	9,211	1,278	△7,933
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	118	118
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	454	245	109	△136
経常収入 小計(a)	9,193	9,456	1,505	△7,951
給与関係費	83,718	88,925	88,508	△417
物件費	33,011	33,498	20,227	△13,272
維持補修費	2,240	1,864	1,246	△618
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	6,180	6,385	3,772	△2,613
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	25	25	23	△2
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	4,944	5,639	5,878	238
退職手当引当金繰入額	2,720	12,352	5,065	△7,286
支払利息	1	0	0	△0
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	132,838	148,689	124,719	△23,970
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△123,645	△139,233	△123,213	16,019
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	122,718	-	△122,718
特別収入 小計(d)	-	122,718	-	△122,718
特別費用	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	16,987	-	16,987
特別支出 小計(e)	-	-	16,987	16,987
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	122,718	△16,987	△139,706
一般財源調整額(g)	-	-	△0	△0
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△123,645	△16,514	△140,201	△123,686
一般財源充当額	126,139	132,248	127,874	△4,374
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	2,493	115,734	△12,327	△128,060

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
国庫支出金(経常費用充当)	旧西尾家住宅耐震診断委託料国庫支出金の減(7,371千円)埋蔵文化財緊急調査費補助金(1,278千円)
寄附金	平成30年度から寄附金受領開始による増(旧西尾家115千円、旧中西家3千円)
物件費	主に旧西尾家住宅耐震診断委託料の減(11,232千円)
特別費用(その他)	災害復旧事業費(旧西尾家、旧中西家等修繕費)

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	9,042	9,456	1,505	△7,951
行政サービス活動支出	135,155	141,679	142,656	977
行政サービス活動収支差額	△126,113	△132,223	△141,150	△8,928
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	-	-	-	-
投資活動収支差額	-	-	-	-
財務活動収入	-	-	13,300	13,300
財務活動支出	25	26	24	△2
財務活動収支差額	△25	△26	13,276	13,302
収支差額 合計	△126,139	△132,248	△127,874	4,374
一般財源充当額	126,139	132,248	127,874	△4,374
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	(行政サービス活動収入)埋蔵文化財緊急発掘調査等費1,278千円、旧中西家住宅事業収入159千円他、耐震診断国庫支出金7,371千円減(財務活動収入)旧中西家住宅災害復旧事業債13,300千円(財務活動支出)リース資産にかかる返済債務24千円
----------	---

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
入館者1人当たりのコスト	平成28年度	7,967人	7,670円	旧西尾家住宅・旧中西家住宅については、ともに平成30年の大阪府北部地震と台風21号により多大な被害を受け、臨時休館しました。そのため、それぞれの入館者数が大きく減少し、一人あたりコストが増加したものです。(旧西尾家、旧中西家の各経常費用(28,500千円、20,645千円)の合計49,145千円を入館者数で割って算出。)
	平成29年度	6,722人	9,298円	
	平成30年度	1,583人	31,045円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成29年度末 A	平成30年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成29年度末 A	平成30年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	5,663	5,878	215
未収金	-	-	-	地方債	-	-	-
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	5,639	5,878	238
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	24	-	△24
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	-	-	-
有形固定資産	913,343	913,320	△23	固定負債	61,036	73,125	12,089
土地	913,320	913,320	-	地方債	-	13,300	13,300
建物・工作物	0	0	-	長期借入金	-	-	-
リース資産	23	-	△23	退職手当引当金	61,036	59,825	△1,211
建設仮勘定	-	-	-	リース債務	-	-	-
無形固定資産	151	151	-	その他固定負債	-	-	-
有形固定資産	-	-	-	負債の部合計	66,699	79,002	12,304
土地	-	-	-	純資産	846,795	834,469	△12,327
建物・工作物	-	-	-				
建設仮勘定	-	-	-	純資産の部合計	846,795	834,469	△12,327
重要物品	-	-	-				
図書館資料	-	-	-	負債及び純資産の部合計	913,494	913,471	△23
投資その他の資産	-	-	-				
出資金	-	-	-				
長期貸付金	-	-	-				
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-				
その他債権	-	-	-				
資産の部合計	913,494	913,471	△23				

Ⅲ 財務構造分析

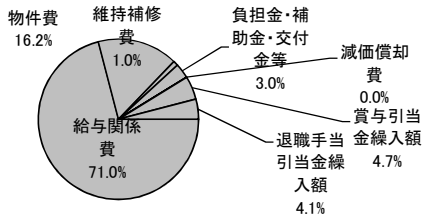
▽人にかかるコストの内訳

事業従事人数	常勤・再任用		非常勤	臨時雇員	審議会委員等	合計(千円)
	月平均	月平均	月平均	年間従事延日数	実人数	
	9人	6.63人	6.63人	620日	10人	99,451
給与関係費等	76,676千円	18,563千円	4,212千円			
内、時間外勤務手当	970千円					

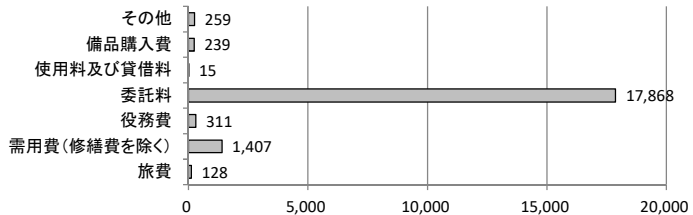
貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
地方債	旧中西家住宅災害復旧事業債13,300千円

▽経常費用の構成割合



物件費の内訳(単位:千円)



▽分析指標

分析指標	年度	平成29年度		平成30年度		差 B-A
		平成28年度	A	B	B-A	
受益者負担比率		-	-	-	-	-
徴収不能引当率		-	-	-	-	-
一般財源充当比率		93.3	93.3	89.6	△3.7	

▽その他特記事項

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

【貸借対照表】
文化財保護事業は、913,320千円(土地)の固定資産を有しています。
【行政コスト計算書】
経常費用は124,719千円であり、最も大きいのは給与関係費の88,508千円、次に大きいのは物件費20,227千円、次が賞与引当金繰入額5,878千円となっています。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

・旧西尾家住宅は、建物等は国指定重要文化財で、庭園は国登録記念物(名勝)であり、現在国所有で管理を吹田市が行っています。建物は明治26年(1893年)～大正年間にかけて建築されたもので、これまで日常的に修繕を行ってきましたが、平成28年度から平成29年度にかけて耐震診断を実施した結果、大規模な解体修繕が必要と判断されました。その後、平成30年度に発生した大阪府北部地震及び台風21号により多大な被害を受けたことから、被害実態や令和元年発足の旧西尾家住宅修理専門会議での検討結果を踏まえて、令和2年度以降11年をかけて実施予定の大規模解体修繕を行っていく必要があります。また、平成31年4月に旧西尾家住宅大規模修繕基金を設立しました。今後は広く基金への寄附を募り財源確保に努めます。
・旧中西家住宅は、建物等は市指定有形文化財及び国登録有形文化財であり、庭園は国登録記念物(名勝)となっています。建物等は江戸時代後期～明治時代に建築されたものです。現在は日常的に修繕を行っていますが、新たに建物屋根・柱に損壊部分が確認されたのをはじめとして、平成30年度に発生した大阪府北部地震及び台風21号により多大な被害を受けたことから、令和元年度に耐震診断を実施し、その結果を踏まえて将来的に大規模な解体修繕等を行うか検討していく必要があります。
・埋蔵文化財の調査は大半が民間の開発に伴う緊急調査であり、調査の事業量全体の把握が困難です。また、大規模な開発も多く現在の人員体制ではその対応が難しくなっています。有形文化財等の調査は所有者等の協力が必要ですが、文化財に対する理解は高いとはいえず、継続して文化財保護の啓発を推進することが必要です。